

第8回住民会議 議事要旨

平成21年(2009年)3月10日

滋賀県流域治水政策室

滋賀県流域治水検討委員会 第8回住民会議

議 事 要 旨

■日 時：平成20年12月1日(月) 13:30～16:58

■会 場：滋賀県厚生会館 別館4階 大会議室

■出席者：20名(傍聴者含む)

委 員 石津文雄、大橋正光、北井香、柴田善秀、杉本良作、中井正子、中村誠伺、
(敬称略) 成宮純一、齒黒恵子、松尾則長

アドバイザー 多々納裕一(京都大学防災研究所教授)

事 務 局 流域治水政策室

■議 事

1. 開 会

2. 議 事

・事務局説明

・審議

「水害から命を守る地域づくり
滋賀県民宣言」について

3. 一般傍聴者からのご意見

4. 閉 会



■議事要旨

1. 開 会

事務局より資料確認等事務連絡の後、大橋座長から開会宣言が行われました。

2. 議 事

・事務局説明

事務局より、今回の住民会議の内容について説明がありました。

・審議

「水害から命を守る地域づくり 滋賀県民宣言」について

事前に委員から収集した意見等を元に、修正した提言案「水害から命を守る地域づくり 滋賀県民宣言」について、柴田委員と北井委員から修正箇所の説明の後、記述内容について議論を行いました。

【成宮委員】

- ・ 昭和30～40年代以降、大規模な水害が起きていないとあるが、水害の大きい、小さいの判断基準は何であるか。
- ・ 私の感覚では、近年の水害も大きいと感じている。

【大橋座長】

- ・ 天井川が多く、多くの水害によって、苦しめられてきたといえる。水害の多い、少ないではなく、近年少ない。というような表現でどうか。

【北井委員】

- ・ 昭和 20 年代や伊勢湾台風等のように、床上浸水や一本の河川から複数箇所の氾濫が起こったのは、30～40 年代である。それ以降はそのような大きな洪水はないのではないか。

【成宮委員】

- ・ 「伊勢湾台風等」というように表現できるならば、そのようにした方がよい。

【中村委員】

- ・ 今年も長浜では水害が発生している。その土地の方にとっては、水害が起こったと思っているだろう。その点も加味してはどうか。

【松尾委員】

- ・ 大水害は確かに少ない。もう一度検討頂きたい。
- ・ 「滋賀県北部や農村地域で過疎化が進み…」という文章があるが、県各地で起こっている事象ではないか。



【柴田委員】

- ・ 南部は人口が増え、北部は減ったという方が、メッセージ性が強いと思ったのだが、検討したい。

【成宮委員】

- ・ 「地域のことは地域で守ろう」とは、自分たちの地域に防災組織ができて、草刈りをして通常の維持管理をして、初めて治水工事をしてもらえるのか？
- ・ 自助・共助がそろって初めて、これだけ地域の人が苦勞されているのだから優先順位を上の方につけてあげるといことが我々の求めているスタイルなのか？

【柴田委員】

- ・ そうではない。公助だけでは 100%全ての命を守ることはできないという共通認識が我々にはあるはずだ。
- ・ 「自助・共助が無いと守ってもらえない」ではなく、「自助・共助が無いと自分たちの命を守れない」ということだ。

【大橋座長】

- ・ かつての治水は、地域で二線堤などを作っていた。近代治水では、洪水を川の中に閉じこ

めようとしている。行政も住民も河川改修を行えば、それで問題ないという意識だ。

- ・ しかし、最近の集中豪雨に対応できないことから、行政も住民も水害は起こるという意識を持たなければならない。
- ・ 樹形図の中でも、公助は土、原点である。土があって4つの根がリンクし樹木が茂る。その中で人の命を守ることができることを表した。

【成宮委員】

- ・ 何年か経ったら転勤などで組織が変わり継承できなくなるので、記録にとどめておきたいということだ。

【杉本委員】

- ・ 「行政」という言葉の内容について確認したい。

【大橋委員】

- ・ この提言は行政に出すものなので、滋賀県に限る。ただし、市町も傘下である。

【成宮委員】

- ・ 3の根っこに民生委員が特出しされているが、やれ！という脅迫のように感じる。民生委員は自治会の中の活動と考え、「自治会などと連携」としてはどうか。



【松尾委員】

- ・ 災害時要援護者の存在は民生委員しか知らない。民生委員は明記すべきだ。

【多々納アドバイザー】

- ・ 少し文章を変えて、「自治会のみならず、民生委員なども」とするのはどうか。
- ・ 「情報の限界」とあるがどういう意味か？

【北井委員】

- ・ 前回会議で傍聴者からの意見にもあったように、浸水予測の結果は、ある算出条件によるもの。それ以外の結果もあり得ることを知るべきだということである。



【多々納アドバイザー】

- ・ 計算の前提条件を明確にし、ここで示された条件以外も発生するというように書いたほうが良い。

【杉本委員】

- ・ 「超過洪水も考慮した河川改修」は、まずいのではないかと？ どういう意図で書いたか説明してほしい。
- ・ 計画よりも、もっと、大きな規模を目標とした河川改修を行うということになってしまう。

【北井委員】

- ・ 水害を川の中だけでなく、流域や地域で受け止められるようにという意味である。

【柴田委員】

- ・ フロンティア堤防の事例があるが、溢れても大きな被害が生じない河川改修をするということだと思っている。計画洪水を超える改修をしろという意味ではない。

【多々納アドバイザー】

- ・ 舌足らずである。たとえ、計画規模を超える洪水が起きても、そのあとの被害が小さくなるようにしてほしいという意味である。丁寧に書き込むべきところだと思う。



【中村委員】

- ・ 河川改修といわず河川管理をするという言葉に置き換えてはどうか。
- ・ 提言の最後にコーディネーターが出てくるが、我々も出て行って、出前講座だけではなく自前講座をする必要があるのではないかと、県や市町の職員に言うだけではなく、我々も講師になっても良いのではないかと？

【大橋座長】

- ・ コーディネーターについては、行政に勝手にやれということではなく、きょうのメンバーいろいろな人材を住民と行政のパイプ役として必要、という意味である。

【齒黒委員】

- ・ 前回、防災組織の役割分担が出ていた。
- ・ 危険が迫ったとき、誰がどうすればよいのか、伝達方法のマニュアルや役割分担を決めるのは、いかがだろうか。

【大橋座長】

- ・ 地域に合ったルールづくりを進めていくのがよいのでは。ここでは、役割分担が明確になかなかできない。

【中井委員】

- ・ 実際、危険な状態が起きたときに、例えば交通事故なら、レスキュー隊がくる。その場にたったときに、どうするか。そういう危機感が、この提言に不足している。

【杉本委員】

- ・ 危機管理の具体例は「訓練」である。訓練をやらなければならない。

【中井委員】

- ・ もちろん訓練が大事だと思う。しかし、堤防が決壊し、流されたときにどうするかをきっちりしておくことが必要と思う。



【石津委員】

- ・ ワークショップ形式で、いろんな意見を収集し、地域の実情にあったルールをつくれれば良い。

【齒黒委員】

- ・ 杉本委員が言うように、訓練をすればよい。
- ・ 訓練は年に1回あり、1軒に1人旦那や世帯主が訓練に参加するが、ふだん留守を預かるのはおじいちゃんおばあちゃんなので、その人たちが訓練に出なければならない。そういう制度をつくって欲しい。

【中村委員】

- ・ 県内全てに自主防災組織を作るという表現を入れる必要があると思う。県全体に自主防災組織を確立するというを入れて欲しい。

【成宮委員】

- ・ 組織つくるということだけではなく、地域としては「絆」が要る。

【杉本委員】

- ・ 樹形図の下の公助に期待する事柄に書いてある「超過洪水」という文章を変えた。
- ・ 下が変われば、上が変わるという認識でよいか。下を議論したら、もう一度、樹形図も議論していただけるということによろしいか。

【多々納アドバイザー】

- ・ 内容については、御理解いただけていると考えていると思っている。上の樹形図の文章は変わらないと思っている。



【杉本委員】

- ・ 今の県の財政で、超過洪水を対象とした河川改修なんてできないと思っている。

【大橋座長】

- ・ 超過洪水を考慮した河川改修を実施するのではなく、流域で対策を行うのである。河川改修で超過洪水をどうにかするという事ではない。

【中村委員】

- ・ 流域治水は、霞堤や竹やぶを利用する先人の知恵を利用して水害の被害を少なくしようということだ。だから、治水安全度という概念では、河川改修なんてできない。上限を設けなくて河川改修はできないという意味だな。

【大橋委員】

- ・ 関連するところは修正する。

3. 一般傍聴者からのご意見

一般傍聴の方から、ご意見をいただきました。ご意見は以下の通りです（敬称略）。

【正村氏（彦根市）】

- ・ 滋賀県民宣言について立派なものできてうれしい。我々現場の人間は、これをこれから利用して、地域でやっていきたい。
- ・ 行政の方々も、家に帰れば、どこかの住民だ。みなさんもしっかり頑張ってください。
- ・ 住民が行政を監視することを考えた場合、滋賀県民宣言を3年ごとに見直すような継続的に監視する部署を設けてほしいと思う。

【柳沼氏（長岡京市）】

- ・ 行政が住民に働きかけても、地域が実際に動きだすまでに何年もかかる。行政と地域の間につたり地元に普及活動を行ったりする組織作り、体制作りがあると良いと思う。
- ・ 地域では働き手がみんな町にとられる。地元で働けるような労働施策なども入っていても良いと思う。

【正村氏（彦根市）】

- ・ 災害が起きた後、復旧復興が長く続くと思う。その段階のことが抜けている。住民会議は宣言を出して終わりではなく、災害後の対応について、話し合いをこれから続けて行かれることを望む。

4. 閉 会

- ・ 事務局より、閉会のあいさつがありました。